



富士ワイズメンズクラブは「社会を明るくする運動富士市推進委員会」の加盟団体です

国際会長主題	A・シャナヴァスカーン	より良い世界のために、共に
アジア太平洋地域会長主題	ジョウン・ウォン	大きなインパクトを起こそう
東日本区理事主題	山田公平	ワイズの方向を見極める
富士山部部長主題	相磯優子	たゆたえども沈まず
富士クラブ会長主題	仁藤斎浩	広げよう 楽しい活動 思いやりの心

会長	仁藤斎浩
副会長	増田 隆
書記	増田 隆
会計	岩辺富雄
直前会長	吉澤廣美
担当主事	金井 淳

2025年 5月 会報

5月協調月間 LT ユース

巻頭言

増田 隆

★2025 年 5 月 4 クラブ合同例会★

と き 2025 年 5 月 11 日（日）18:00～

と ころ 御殿場東山荘（0550-83-1133）

受付

司会

1. 開会点鐘

1. ワイズソング・ワイズの信条

1. 4 クラブ会長挨拶

1. 出席者紹介

1. 「ショータイム ヒストリアンノブロー」
尾崎信一郎ワイズ（滋賀蒲生野クラブ）

1. YMCA の歌

1. 閉会点鐘

引き続き 会食・懇親会

19:30～20:30

5月 Happy Birthday

5月2日 金井 淳君

4月例会報告

在籍会員	9 名	例会出席者	6 名	スマイル基金	6,000 円	CS 基金	円
休会会員	1 名	出席率	67%	スマイル累計	46,000 円	CS 累計	円
担当主事	1 名	ゲスト	名	ビジター	名	総出席者	7 名

マイタイム

監事 仲澤 昭夫

先般石破首相がトランプ関税政策を評して「これは国難である」と表明した。トランプ大統領は発言をコロコロと変えるがその真意は対日貿易の米側の著しい赤字回復にある。ならば此方にも打つ手は有る。幕末ペリーの国難に立ち向かった13代将軍家定（徳川歴代将軍の裡最低だと評されているが、実は外見と違って頭脳明晰思慮深淵だったと言う）が取った政策、幕府開闢以来の措法を枉（ま）げ慣習を破ってまでも開国に踏み切って各国と和親条約を結んだ。幕閣が優秀だったがそれを最終的に決断したのは家定だった。それに習って発想転換をして米国の貿易赤字に見合う物を大量に買えばいい。米国が得意とする分野で日本にないものを買う、それが核兵器だ、クリントン元大統領が反省（ウクライナの安全保障の代償に、核兵器撤去をさせた事が、露軍のウクライナ侵攻を招いたと明言）したように日本が憲法を改正し諸般の規制を解除するには時間と労力がかかるが、支那、北朝鮮、ロシアなど夜郎自大国家から日本の安全を守るためには手加足枷の法律を改正して、核実験の手間暇を省いて米国から大量の核兵器を購入すれば、貿易不均衡とトランプ大統領の言う日米安保条約の片務性を少しでも改善する一助となり、また自衛力拡大と一挙両得となる。

4月例会報告

定刻どおりに4月例会は開始されました。今月は仁藤会が欠席の為、増田副会長が開会点鐘の後、鈴木君の開会挨拶がありました。ワイズソング、ワイズの信条、理事、部長、会長主題の唱和の後、増田副会長から会長挨拶がありました。会食後、マイタイムとなり、今月は出席者から、これからの富士クラブについて忌憚のない意見を出していただきました。会員減少、クラブの存続、年会費、次々期会長・・・問題は山積です。当然ですが結論が出ず、継続的に前向きに検討していくことになりました。

4月役員会報告

例会終了後、引き続き役員会を開催しました。

1. 5月例会は5月11日（日）東山荘において4クラブ合同例会となりました。
1. 海岸清掃の件
4月20日（日）10時より毘沙門天南側海で実施。
1. 富士山YMCA大感謝祭 5月18日（日）
綿菓子で参加
1. 第28回東日本区大会の件
参加者はまとめて登録。登録費は各自振込。
1. 次期副会長の件
鈴木君が都合により辞退したため、増田次期会長が他のメンバーにあたることになりました。

W4W 海岸清掃活動報告

CS事業委員長 金井 淳

世界中のワイズメンズクラブの仲間たちがゴミについて考え、ゴミ拾いなどをする「W4W」の一環として4月20日（日）富士市今井毘沙門天南側海岸において10時より実行しました。小澤君、仲澤君、吉澤君、鈴木君、増田君、小澤メネットさん、ボランティアの松浦さんの7名が参加しました。ありがとうございました。



富士山YMCA便り

富士山YMCA 金井 淳

富士山YMCA大感謝祭が今月に迫ってまいりました。先月号でご紹介した「富士山SDGs推進パートナー」の企業に加え、新たなつながりからご協力いただく団体も増えております。その中のひとつとして、「東京YWCA」とのご縁により、ウクライナの子どもたちによる絵画展を開催することとなりました。この展示は、ウクライナの隣国ポーランド・クラクフ市にある「サンスター日本語学校」が行った支援活動の一環として、避難してきたウクライナの子どもたちがアートセラピーの時間に描いた作品を紹介するものです。東京YWCAは、「絵を描いた子どもたちは、すでにポーランドにはおらず、行方もわかりません。絵をポーランドに返しても、受け取る子どもたちはいないのです。この悲惨な戦争が終わるその日まで、ウクライナを忘れないために、展覧会を続けていきたいと考えています」と語っています。大感謝祭の際には、子どもたちの思いが込められた作品をご覧ください。

